

慶蔵院寺報

# 公孫樹

2025年9月発行

第164号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町1211

TEL 0596 (22) 3726



慶蔵院 かんこ踊り 画 山寄淑子

## 葬儀は自分で考えよう

「自分や家族の葬儀のすすめ方について、慶蔵院と、今から話し合っておきましょう」と訴えています。この二十年來の葬儀の様変わりや、どのように受け止めておられるでしょうか。次々と葬儀社が建てられ、掛け金がすめられてきました。「祖母ちゃんが掛け金をしてくれてあるから葬儀費用は心配ない」と思っていたが、葬儀を終えたらとんでもない出費となっていました…。という事例を何度も経験してきました。最近では、家族葬用の会館建設の増加に伴い、「一回の入金だけの会員制」とか「小さなお葬式」「直葬プラン」の宣伝も広がっています。これで葬儀費用が安く抑えられると思ってても、そうならないのが現実です。

葬儀を済ませて、こんなはずではなかったと思う前に、「事前に慶蔵院と話をしておきませんか」と提案しています。次のような事を、一緒に相談したいと思っています。

- ① そもそも、なんで葬儀があるのですか。葬儀無しではダメですか。何のために葬儀をするのですか。
  - ② 葬儀の費用は最低、いくらかかるのですか。
  - ③ 僧侶のお布施の額は、どうしたらいいのですか。
  - ④ 葬儀会館と寺の本堂での葬儀との違いは何ですが。
  - ⑤ 葬儀ができたらず何をしたらいいいのですか。
  - ⑥ 掛け金をしています。今後の対応はどうしたらいいですか。
  - ⑦ 家族葬が主流となっていますが、その風潮についてどう思いますか。やはりあなたも家族葬を選びますか。
  - ⑧ 亡くなった人の「いのち・魂」は、無くなることなく、永遠に生き続けると信じられていますか…
- このようなことについて、お茶を飲みながら、日程を調整した上でゆっくりと話し合います。

お葬儀ができた場合は、何時でもかまいません、最初に、慶蔵院にご連絡ください。電話 22-3726

# 9月の行事予定



3日(水)	第8回 慶蔵院団体参拝バス旅行	午前6時半出発～ 奈良へ
8日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後1時半～
11日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前10時～11時半 午後1時半～3時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一会館にて</span> 参加費 1回 1000円
10日(水)	写経会 羊毛フェルト教室 講師 monmo 先生 男性詠唱隊	午前10時～ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本堂にて</span> 午後1時～3時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一会館にて</span> 参加費 1500円 午後1時半～3時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本堂にて</span>
17日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生 落語会「いちご亭」 南遊亭栄歌・安楽亭東風	午後1時～3時 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本堂にて</span> 午後7時～ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一会館にて</span> ※今月は第3水曜です。
23日(火)	秋彼岸会	午前10時～ <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本堂にて</span>
24日(水)	戦没者慰霊・平和の鐘 地蔵講開帳・地蔵講	朝の勤行にて鐘撞きは午前8時頃 午後1時半～
26日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後7時～子ども茶道教室 午後7時半～大人茶道教室 参加費 大人 500円 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一会館にて</span>

## 我聞如是、又は如是我聞の事

これは無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経・法華経等の書き出しの言葉です。お釈迦様は説法を文書として残しませんでした。死後大勢の弟子たちが、大迦葉を頭に、常にお釈迦様に従い、記憶力にすぐれていた阿難が「私はこの様にお聞きしました」と話し、それを元に各弟子たちが、まとめあげたのが初期の経典です。「お釈迦様はこのようにお話しになりました」とは言っていないし、「私は」であって他の誰でもありません。功德を積んだ大勢の弟子たちが検討しているのです。

心理学に「バイアス」という言葉がありますが、思い込み、偏見、先入観といった意味で、ネット上で炎上が起こるのも、人の感情に基づいているバイアスがかかっているからです。自分にはバイアスがあることを認識し、経典をまとめあげた釈迦の弟子達のことを踏まえ、私たちもまた重要な時には立ち止まる勇氣を持ちたいものです。

何気なく発した言葉が、池に石を投げ入れた時、波になって四方八方に形を変えながら広がり、岸にたどりついて跳ね返り、大きく思いがけない事となって返ってくることは、世間ではよくあることです。だからこの世は生きづらい。これを防ぐには四諦を理解し、八正道を行うことだと説かれても、八正道は凡夫である私には高すぎる山です。ただただ念仏をお唱えして、阿弥陀様の恩寵を受ける以外に道は無いのです。

(文 麻畑公生)

慶蔵院豆知識 #2

20

## 住職の健康回復への道のり(43)

京都、高島屋での山村御流華展に出展させてもらいました。遠路、お出かけいただいたみなさんありがとうございます。二十一日に仕込み、二十二日、二十三日と会場での係を務めました。たくさんの方に見ていただき、会場の雰囲気や作品と向き合う見学者の、一人ひとりの華の心と向き合う姿を感じ、「寺も、このようではなければならない。華に人があつまるように、寺にも人があつまるようにならないといけない」などと思いつつ、緊張して立ち続けました。二日間、昼ごはんも食べませんでした。八時〜七時まで。二十四日は地藏盆。大切な初盆精霊送りに寺に戻った時、右足首が痛くて歩けなくなりしました。左足も前に出にくいのです。寺世話人さんがさすってくれました。これで歩けるようになりました。この方、今後、地藏堂開帳の日に、時間を決めて、「おさすりパワー」を発揮していただきたい…とをお願いしている方です。十月号で発表します。さらに二十六日、大阪の八尾市へ。足の後ろの三本の筋肉の緊張を取りましよう。針をうつてもらいました。これにて完治。

孫たちと城崎温泉梅雨晴れ間

奥田 悦生

(「知恩」誌九月号「柳檀」に掲載)

## 昭和つれづれ物語 ⑨

境内にはギンヤンマ、オニヤンマが集まってきた。細いひもの両端に小さな石を結び付け、精一杯、高くまで放り上げる。トンボは石を餌と勘違いして追いかける。糸にトンボの羽が絡まると、みごとに落ちて来る。何十回も投げて一回も有るか無いかの成果に、歓声上がる。今度こそ自分も…と暗くなるまで、首が痛くなるまで石を投げ上げたものだった。この競技もやっぱりユキちゃんが一番だった。

赤トンボも、山から、群れを成して降り来たる日があった。真っ赤な色ではなく、やや黄色がかった色の群れが境内を染めた。たまに見る真っ赤な色のものは貴重に思えた。群れは一時を飛び回ると、堤防の方に消えていった。

シオカラトンボ、ムギワラトンボは常時目にすることが出来た。境内の藪にはオハグロトンボとイトトンボがいた。オハグロは、今も時折みかけ。しかし他のトンボは境内から消えた。

落語会「いちご亭」 ※今月は第二水曜です

九月十七日(水)

午後七時

慶蔵院「一会館」にて

出演 法話 慶蔵院住職

落語 南遊亭栄歌

安楽亭東風

無料です



安楽亭小東風(小学二年・晋之介君)の紙切り、好評です。お楽しみに!!

掲示板

## 大正大学同窓会三重県支部公開講演会

10月30日 開場 13:00 開会 13:30

松阪市新町 874 樹敬寺

講師 元女子レスリング日本代表

リオ五輪 女子レスリング金メダリスト

どしゅう さら  
土性 沙羅



入場無料

整理券がいります。慶蔵院まで、急いで、お申込み下さい。

## 講演会「ヤマト民族の源流とこれからの生き方」

重岡昌吾&高塚高仁講演 9月14日(日)

13時半から 於 観光文化会館大会議室

### 講師紹介

重岡昌吾氏…1967年和歌山県生まれ。天然温泉施設「湯の里」に沸く三種の水の不思議な働きに魅了され、水の本質に向き合う研究を開始。神戸大学と共同で研究所を設立。水のふるまいについての発信を続けている。

高塚高仁氏…1959年津市に生まれる。日本の宇宙開発の父、糸川英夫博士の思想を継ぎ、「民族の歴史を失った民族は、必ず滅びる」と祖国日本を洞察。古事記や聖書の智慧を「足の裏」で読み解き、日本人の心を照らし続けている。

連絡先 080-5104-4913 (三浦)



くらしを守る  
いまを生きる時  
あきらめず  
あきらめず  
あきらめず  
先祖の  
音なき  
声と聞け  
格也

## 葬儀について考えましよう

先月号からの続きとして、慶蔵院で行われた二つの葬儀の概要をまとめます。どうぞ参考にされ、不明なところは面談の際に質問して下さい。



① 信徒。事前相談一回。母親の葬儀、喪主は長男。祖母が葬儀社に五十万円入金済み。契約の解約の勧めは、時間不足のため実らず。通夜と出棺は、葬儀社の家族葬用の会館で、葬儀は慶蔵院本堂を選択。僧侶は三名。葬儀社と葬儀に会館を使用しない分の返金を交渉したが不成立。家族葬のセット価格、五十万円は分割できないとのこと。また参列者が十人を超えれば、大ホール使用となり、別途価格対象とも。慶蔵院の本堂に十六名が参列して葬儀を行った。初七日忌も。その後、入檀。

② 檀家。事前相談なし。弟の葬儀。兄が喪主。施設の紹介で「小さなお葬式」を選択。システム上、地元葬儀社に引き継がれる。このことだけで、葬儀社単独なら三十九万が、五十万円となることを知り、兄夫婦は絶句。ここから間に入り葬儀社と交渉。「小さなお葬式」対応をキャンセルさせ、葬儀社単独の家族葬三十九万円プランにするか。葬儀社の直葬プランだと会員価格で三万円となるが、僧侶が入ったの葬儀は、火葬場以外でなくなる。通夜・出棺も立ち合い無し。「小さなお葬式」対応を選択すると、二十一万円が直葬プランとなるも、葬儀社は場所を貸しただけということになるので、何をしてもらってもよいとのこと。そこで、夜の十時まで、二時間の超過代金二万円を支払い、その場で枕経と通夜と出棺回向を兄夫婦、親戚の四人ですませ、火葬後に慶蔵院本堂にて葬儀を行った。僧侶三人。初七日忌も。葬儀社に支払った総額二万五千円。僧侶に支払った金額二十万円。